

自律した学習者を育てる教師の養成プログラム TEX

-アジャイル型手法を導入したカリキュラム開発-

構想調書：要約版

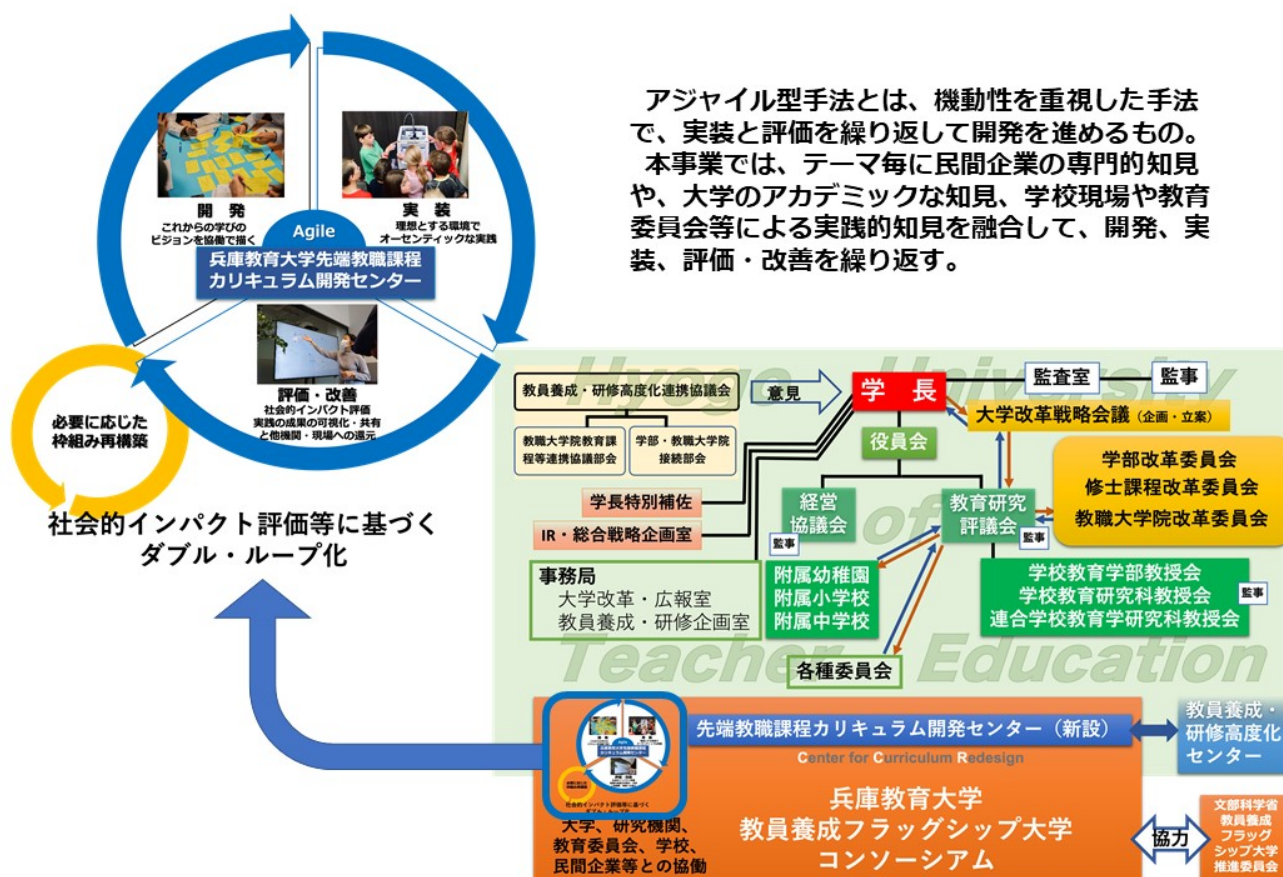
兵庫教育大学

【名称】自律した学習者を育てる教師の養成プログラム TEX (Teacher Education program for the Transformation)

-アジャイル型手法を導入したカリキュラム開発-

【ねらい】 児童・生徒が自律した学習者として多様な人々と協働し、Society5.0 や SDGs を含めた個人・社会のウェルビーイングを実現できる次世代型の学びの創造に向けて、柔軟で高度な課題解決力を持った教師を養成する。

TEX プログラムを実施するにあたり、学長を中心とした迅速な意思決定が可能な全学ガバナンス体制を構築した。自律した学習者を育てる教員養成プログラムを、民間企業をはじめとする多数の連携機関との協働により、ビジョン・メイキング、開発したプログラムの実装、各々の立場で利活用できるデータや事例の可視化など、アジャイル型手法を用いた社会的インパクト評価に基づくダブル・ループの評価サイクルを構築し、文部科学省や教員養成フラッグシップ推進委員会との協力のもと、教員養成制度改革にも貢献する（図1）。



アジャイル型手法とは、機動性を重視した手法で、実装と評価を繰り返して開発を進めるもの。本事業では、テーマ毎に民間企業の専門的知見や、大学のアカデミックな知見、学校現場や教育委員会等による実践的知見を融合して、開発、実装、評価・改善を繰り返す。

図1 学長を中心とした全学ガバナンス体制による教員養成フラッグシップ大学運営

およびアジャイル型手法を用いフレキシブルな開発・実装・評価を行う先端教職課程カリキュラム開発センター

1. 先導的・革新的な教員養成プログラム・教職科目の研究・開発の内容

(1) 学部学生が教職に向けて「自律した学修者」として自らを高められる新・兵庫教育大学教員養成スタンダードの開発および教職科目体系の見直し (図2)

社会の急速な変化に対応した学校教育の創造に向けて、教師が自ら学び続ける資質・能力を持つことが求められることを踏まえ、平成23年度より運用を開始した兵庫教育大学教員養成スタンダードを、中教審や県・政令市教育委員会の教職員育成指標を参照しつつ改善し、新・兵庫教育大学教員養成スタンダードとして提案する。また、新・スタンダードに照らし合わせた学生の成長を可視化するツールとしてのe-ポートフォリオの継続的運用と改善により、新・スタンダードを羅針盤とした「教師として自ら学ぶ力」の育成を図る。さらに、新・スタンダードに基づき教職科目体系を見直す。

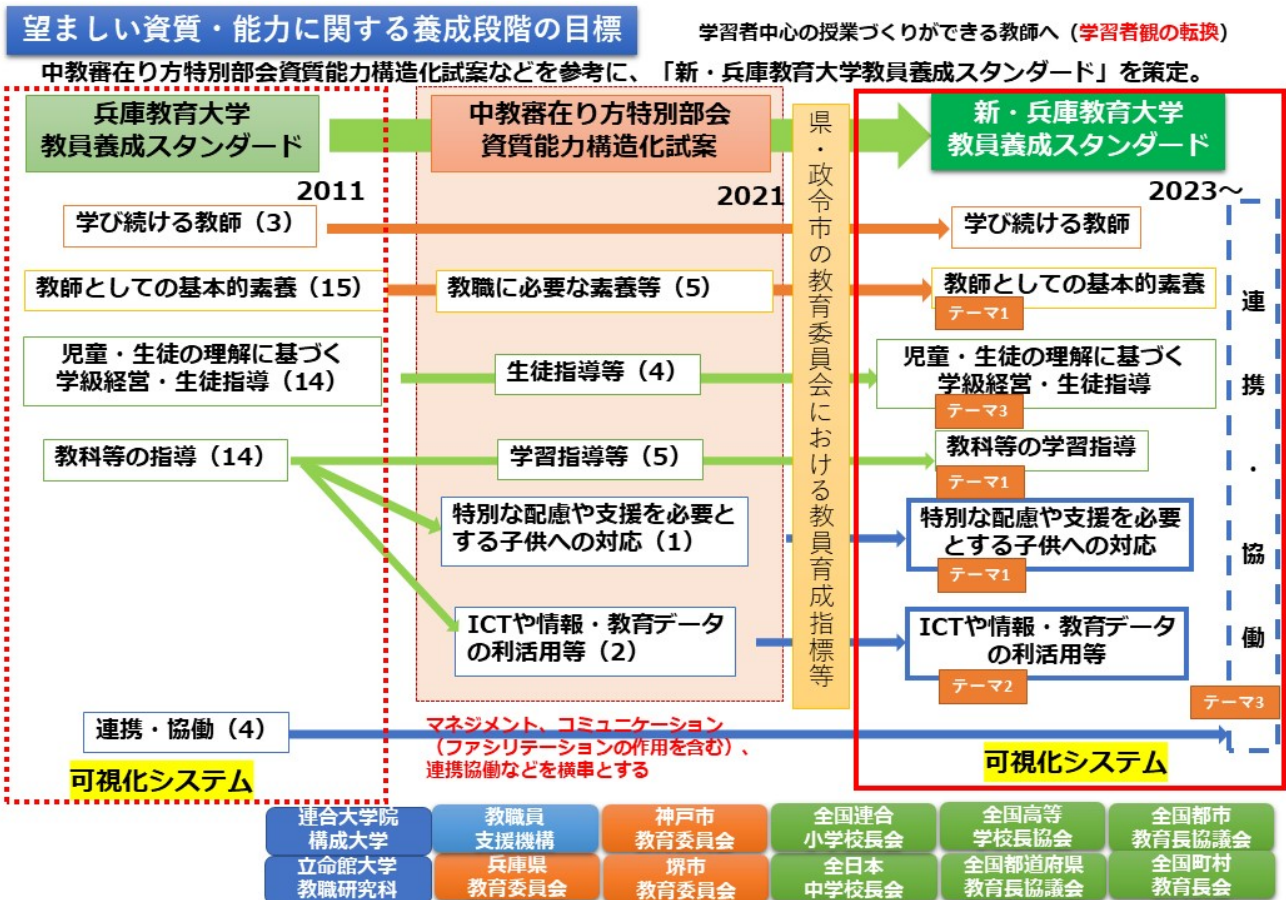


図2 新・兵庫教育大学教員養成スタンダード (案)

(2) 先導的・革新的な教職科目の研究・開発 (図3)

Society5.0 やSDGs などを含む個人・社会のウェルビーイングの実現に必要な新しい教育課題を教員養成に取り入れるため、テーマ毎の専門分野に関する最新知見を有する民間企業、大学、教育委員会等と連携し、社会的ニーズを先取りした、先導的・革新的な教職科目を次の4テーマに即して開発する。

- ① 学習者中心の学びのデザイン、ファシリテーターとしての教師の役割、インクルーシブ教育に関する科目およびコアカリキュラム開発 (表1)
- ② EdTech、教育データの利活用、STEAM教育に関する科目およびコアカリキュラム開発
- ③ 教師の連携・協働による教育体制の構築に関する科目およびコアカリキュラム開発
- ④ 教職大学院共通5領域に加える新たな領域科目の開発およびその汎用化

なお、新・兵庫教育大学教員養成スタンダードの策定および先導的・革新的な教職科目の研究・開発と実装、評価にあたっては、機動性を重視したアジャイル型手法を用い、ダブル・ループの評価サイクルによってフレキシブルな改善を図るシステムを構築する。

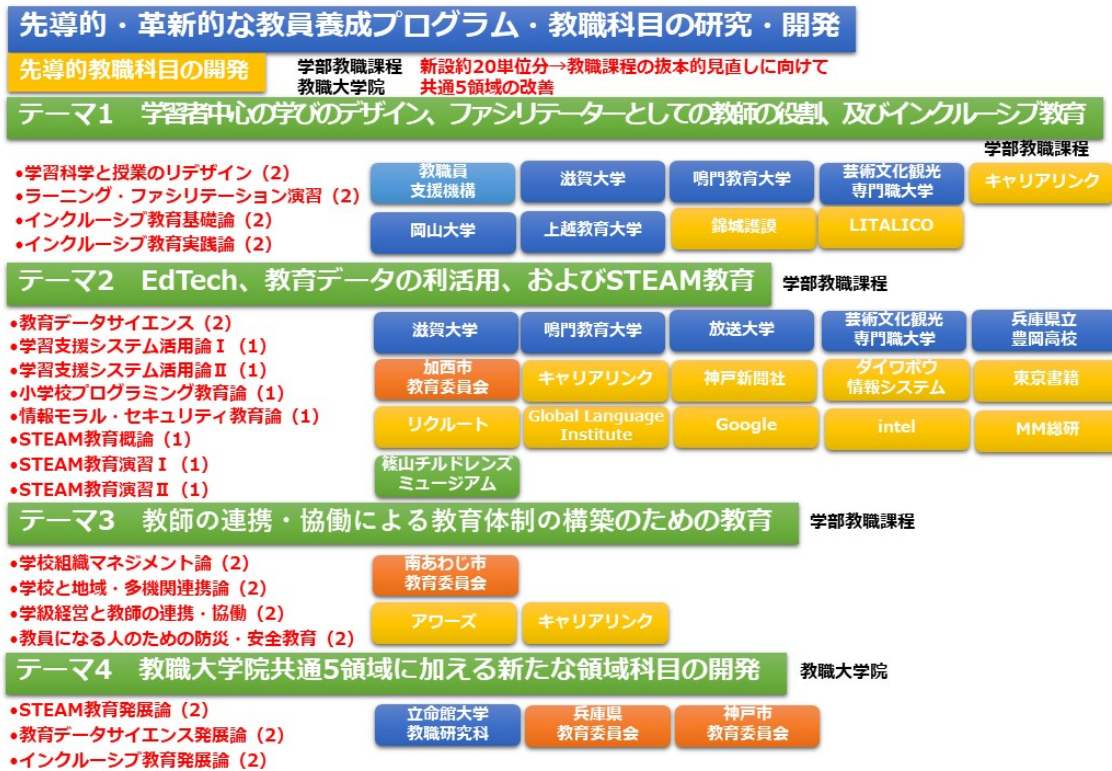


図3 フラッグシップ大学運営に向けたテーマ設定および連携体制

表1 「学習科学と授業のリデザイン」の授業のテーマおよび目標等

学習科学と授業のリデザイン (2単位)	【クラス規模】大規模 (160人程度)
【授業のテーマおよび目標】	
①学習観・授業観の転換とその核心としての学習者観の転換 人はいかに学ぶか 社会構成主義を背景にした学習の再定義 「受動的な学び手」から「能動的で有能な学び手」へ	
②新しい学習・学習者観に基づく学習環境のデザイン 「授業」という学習環境のデザイン 他者と考えながら学ぶ協調学習の授業づくり 人がもともと持っている学びの力を引き出す環境づくり 「学びの伴走者 (ファシリテーター)」として果たすべき教師の役割 転換された学習・学習者観に依拠した新しい評価のかたち	
③学習科学の視点に立ち省察的実践を通じて学び続ける教師としての意識・態度の育成 学習・学習者観の転換と連動した授業研究の在り方 専門職教育の基軸としての省察的探究 学び合う教師のためのコミュニティづくり	
【授業の方法】講義・演習、グループワーク等	

2. 全国的な教員養成ネットワークの構築と成果の展開 (観点④)

上記の見直し・開発を多様な視点のもとで進めたり、得られた成果を普及促進したりするために、本学を中核に、教職員支援機構、放送大学、連合大学院博士課程構成大学や立命館大学教職研究科をはじめとする国公私立8大学、附属学校園や県内公立学校、全国の小中高校校長会、教育長会、そして、県、政令市教育委員会、さらに社会教育施設や民間企業13社との連携により、全国的な教員養成ネットワークを構築する。多角的なステークホルダーとの対話と知見を掛け合わせたビジョン・メイキング

グ、アカデミックで体系的な理論と企業の先進技術・リソースにより構築された教育環境下での実装、各々の立場で利活用できるデータや事例の可視化、その協働的な評価サイクルのため「兵庫教育大学教員養成フラッグシップ大学コンソーシアム」を設立し、事務局を「兵庫教育大学先端教職課程カリキュラム開発センター」が担う。なお、全ての機関から本事業への参加の了承を得ており、特に全国への普及に関しては、放送大学との連携も想定している。

TEX プログラムの成果を検証するため、社会的インパクト評価ツールを開発・運用し、文部科学省や教員養成フラッグシップ大学推進委員会と連携して、全国的な教員養成ネットワークにより、成果の普及に努める。同時に、各大学で実施可能なFDモデルを開発し、全国の教職課程教員を対象としたFD研修会（オンライン開催含む）を企画・実施するなど、力量向上・能力開発をはかる大学教員を支援する不断の取組を行う（表2）。

表2 本事業に関する社会的インパクト評価のロジックモデル仮案

活動	アウトプット	直接アウトカム	中間アウトカム	最終アウトカム
1-① 望ましい資質目標の設定	・新・教員養成スタンダード策定 ・eポートフォリオ運用	・資質・能力の枠組み設定 ・自律した学修者の養成 ・学生の資質・能力の見える化	・自身の資質・能力のメタ認知による教員就職意欲向上	・自律した学習者を育てる教師の増加
1-② 授業科目開発	・カリキュラムポリシー改訂 ・開発科目群、科目数、科目内容 ・実装科目群、科目数、科目内容、受講者数、単位取得状況、成績分布	・学生の資質向上（学習者観・学習観の転換、ファシリテーション力の獲得、インクルーシブ教育実践力の獲得、デジタル教科書、校務システムの活用力の獲得、教育データ分析力の獲得、STEAM教育指導力の獲得、非認知的能力の向上）	・教師の指導力向上（自律し協働する学習者を育成しようとする教師、ファシリテーション力の向上、インクルーシブ教育実践力の向上、デジタル教科書、校務システムの活用力の向上、教育データ分析力の向上、STEAM教育指導力の向上、非認知的能力の向上）	・価値共創できる教師の増加 ・児童・生徒の認知的能力向上を支援する教師の増加 ・児童・生徒の非認知的能力向上を支援する教師の増加
2-① コンソーシアムによる研究・開発、実装、評価	・設置（連携機関数）、会議回数 ・教員養成の多様なステークホルダーの連携	・連環型システムによる評価 ・アジャイル型手法による社会的ニーズを先取りした教職課程カリキュラムの開発、実装	・アジャイル型手法による社会的ニーズを先取りした教職課程カリキュラムの評価、改善	・教職課程カリキュラムの質向上 ・連環型評価システムの質向上
2-② 教職協働、学生参画FD	・研修会年10回、連携研究会年2回 ・参加教員・学生数	・参加教員・学生数の増加 ・教職協働、学生参画FDの全国展開	・大学教員の学習者観の転換	・転換された学習者観に基づく授業実践の増加
3 教職課程の制度改善への貢献	・教員養成フラッグシップ大学推進委員会への参加 ・5年一貫による教員養成制度の検討 ・教育学部（学科）アドバンスト科目の設定	・教員養成フラッグシップ大学推進委員会との協働による事業内容の機動的な評価・改善 ・5年一貫による教員養成制度のモデル策定 ・教育学部（学科）カリキュラム高度化	・教員養成フラッグシップ大学推進委員会との協働による事業内容の機動的な評価・改善 ・5年一貫による教員養成制度のモデル策定 ・教師の指導力向上	・教師の資質・能力の向上 ・学校教育力の向上

3. 取組の検証を踏まえた教職課程に関する制度の改善への貢献

前述の通り、文部科学省や教員養成フラッグシップ大学推進委員会と連携して、TEXプログラムの成果を広く普及させる取組を行うとともに、以下の教職課程に関する制度改善に結びつけたい。

①学部から教職大学院への接続による教員養成の高度化

早期卒業制度等を活用して連携教職大学院に入学する5年一貫教員養成のルートを設定する。その際、必ずしも5年間を一大学で学ぶ必要はなく、連携した大学の教職大学院への進学ルートを開く。なお、4年制による教員養成も維持することによって、教員の確保も担保する。

②教員養成大学（学部）における専門職養成機能の一層の強化

教員養成フラッグシップ大学特例措置22単位（小学校）以外に、教員養成大学（学部）については教職アドバンスト科目15単位程度を開設し、「自律した学修者」としての教師の学びに関するマネジメント力の育成を図る。さらに、教員免許制度改革を視野に入れた教職科目体系の研究を行う。